

安全対策が不足する通学路の今後の取り組みは

多角的な視点で安全対策の検討を行い、対策を進める



なかみ やすのり
中神 靖典
新政田原自民クラブ



児童・生徒の安全対策について

問 児童の登下校時における通学路の安全対策は。

答 田原市通学路交通安全推進協議会において、毎年、市内全ての通学路の危険箇所や安全性について点検・協議し、交通安全施設や防犯施設の設置、改修等の対応をしている。また、集団下校の実施や交通指導員などの付き添い、青パトの定期的な巡回など、登下校時の安全確保に取り組んでいる。

問 安全対策が不足する通学路の今後の取り組みは。

答 田原市通学路交通安全推進協議会において、多角的な視点で安全対策の検討を行い、通学路の変更を含めた優先順位により対策を検討していく。

問 急激な気象変化に伴う学校の対応は。

答 WBGTという気温、湿度、輻射熱を考慮した熱中症を予防するための暑さ指数を活用し、活動の可否を判断するとともに、小まめな水分補給を指導している。

問 冷たい水を安心して補給できるウォータークーラーを設置し、熱中症予防のための環境を整備する考えは。

答 現時点では設置する計画はないが、他の熱中症対策を実施する中で、必要に応じて検討したい。

問 学校の防犯対策は。

答 学校敷地内への出入りを限定、防犯カメラや各教室と職員室を直接つなげるインターホンの設置、教室間で連絡を取り合うトランシーバーを常備して、非常時でも情報共有ができる体制を整えている。また、田原警察署等の指導のもと、教職員の不審者対応訓練を毎年実施し、防犯意識の向上に努めている。



超高齢社会の進展への対応について

問 地域での見守り体制の強化や認知症の高齢者とその家族に対する支援体制、社会的孤立対策は特に喫緊の課題であるが、具体的な施策と今後の方向性は。

答 見守り体制強化のため、高齢者支援センターを中心に自治会や民生委員、関係機関と連携した定期訪問や相談支援を実施している。今後は、既存のサービスや支援だけでは対応し切れない課題や新たなニーズへの対応、課題解決に向けた仕組み作りが必要となる。認知症高齢者とその家族への支援体制は、認知症地域支援推進員や認知症初期集中支援チームの活動で早期発見・受診を促し、今後は本人の意思の尊重と家族負担軽減のための相談支援や、認知症本人を短期間預かるレスパイト提供体制の拡充を目指す。社会的孤立対策としては、住民主体の活動を支援し居場所を確保することで、人とのつながりを実感できる取り組みを実施している。今後は、孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において何人にも生じ得ることとして、世代を超えた多世代交流のつながりを創出するほか、地域とのつながりを強化する施策を検討していく。

高齢者の多様なニーズに対応する施策は

地域や社会と関われるきっかけを提供していく



おがわ きんいち
小川 金一
自由民主党田原市議員

